

平成21年度 長野県須坂高等学校 学校自己評価表

学校目標	中長期的目標	今年度の重点目標
1 基本的な生活習慣を確立し、豊かな知識・表現力、創造的な思考力を身につけた生徒の育成を目指す。	I 自律的な生活習慣の確立を図る。	○ 生徒・保護者・地域の方々に、さらに理解・信頼される学校創りを目指す。
2 学年、学級担任、教科担任、クラブ・委員会顧問、各係等が相互に連絡・連携を密にし、全教職員が同一歩調で生徒への指導に当たれるようにする。	II 学習支援の環境を整備する。	i 土曜日の有効活用を含め、学習習慣の定着を図るとともに、授業内容の一層の充実を目指し、学習環境を整える。
3 保護者、地域の方々の要望に謙虚に耳を傾け、健康で逞しい有為な若者を育成することを目指す。	III 自己の適性の伸長と学力の向上を図り、希望進路の実現に向けた指導をする。	ii 生徒会の委員会やクラブと連携して、生徒の自律を促し、活気ある学校創りに努める。
	IV 全教職員の連携がより円滑に機能するような学校運営を行う。	iii 学力の向上に向けて、学年内・教科内および学年間・教科間の連携を強化する。
		iv 進学対応型単位制を含め、生徒の多様な進路希望に対応した、特色ある教育課程を研究し、施行する。

総合評価		
今年度重点目標に対する成果と課題	評価	今年度重点目標に対する改善策・向上策
i 授業や土曜講座および学校全般の学習環境整備が進みつつある。生徒や保護者のアンケート結果や公開授業(2回)の反省をどう生かすか課題である。 ii 運動系各クラブの校地周辺清掃活動が生徒の自主的活動として定着してきている。更に日頃の活動への積極性が求められる。 iii 進路指導係・学習指導係を中心に、学年・教科の連携した指導体制が整備されつつある。また、学年・進路通信なども多く発行され、生徒および職員全体の意識疎通も図られている。今後は保護者との連携もより強くして、学力向上に取り組む必要がある。 iv 本年度から進学対応型単位制へ完全移行することに伴い、生徒の進路実現により対応しやすい教育課程が研究され、その運営方法にも検討を加えられた。今後は多様な生徒の希望や受験形態に対応できる体制と学習内容の整備が課題である。	A	i 更なる努力、改善を目指したい。また、アンケート等を研究し、学習環境を一層向上させる。 ii 新執行部への引継ぎを確実に行い、加えて生徒自らが考え行動できるようなサポートを行う。 iii 学年・教科に加え、各係における取り組みが、相互に効果を発揮できるよう、その連携についても更に研究を加える。また、学力向上に向けて保護者との連携を図る。 iv 魅力ある学校・特色ある学校づくりについて、生徒・保護者および校外からの要望も取り入れながら研究する。また、進学対応型単位制について、中学生・保護者や地域の皆さんから、より深い理解を得られるように工夫する必要がある。

<評価> A:達成 B:ほぼ達成 C:改善の余地有り

領域	対象	今年度の具体的目標 (評価項目)	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動領域	教育課程	1 生徒の多様な進路希望に対応した教育課程を研究する。	・大学入試、生徒の進路希望を分析研究し課題を明確化できたか。	・単位制を利用し、効率の良いカリキュラムに努めてきた。少人数講座を増やすのか、より多くの種類の講座数を増やすのかで意見の分かれたところである。	B	3年後に始まる「新教育課程」を念頭に置き、さらにきめ細かなカリキュラムの作成に努力していきたい。
		2 全学年単位制導入の初年度に当たり、教育課程上の問題点をとり上げ検討していく。	・進学対応型単位制(選択制)を含め、特色ある教育課程の実現に向け、生徒・地域の多様な要望に対応した、カリキュラムになっているかどうか。	3年次の半期設定科目の次年度開設講座数が増し、少しずつではあるが充実してきている。	B	まずは、各教科の協力をいただき、3年次のみならず、1、2年次を含めた半期設定科目のより充実に向けていきたい。
	学習指導	1 学習意識の向上を図る。	・学習習慣の向上及び定着がみられたか。 ・学習・生活オリエンテーション、学習合宿が効果的であったか。	1 学年の学習合宿、オリエンテーションを4月の初めに実施し、高校での学習に対する理解に役立った。	B	学習合宿の時期については4月が望ましいと思われる。曜日は木曜日・金曜日の実施が生徒、職員にとって都合が良い。施設や場所について更に研究が必要である。
		2 放課後や土曜日の自主学習支援の充実を図る。	・自習室を多くの生徒が利用できる工夫、環境整備ができたか。	10月より平日の毎日7時まで利用できる職員当番を決めた。利用する生徒は増加している。	A	職員の当番は今後も継続していくが、負担軽減のための方策を考えていきたい。
		3 校内授業公開、授業研究会の充実を図る。	・相互の研修の機会を有効に活用できたか。	6月初めに2週間校内授業公開を行ったほか、11月に複数の教科で授業公開を実施し、互いに研修を深めることができた。	A	より多くの方が参観できるよう働きかけるとともに、有効的に活用されることが望ましい。
		4 授業や学習全般における生徒の声を反映する。	・授業アンケートや生活実態・学習状況調査を実施し、指導の改善に生かしたか。	生徒の学習への姿勢の項目を加えて実施した。調査結果を個人・教科で検討し、授業の改善に活かすことができた。	B	結果の集計や資料作成に大変手間取ったため、技術的な改善ができないか検討する必要がある。
		5 職員間の連携を深める。	・学力状況に関わる情報を共有できたか。	学期末の成績のほか模擬試験の結果についても教科担当者を含めて共有されることが必要である。	B	生徒の学力向上に役立てる具体的な方策を更に研究し、職員間で共有できるよう連携を深めていきたい。
	進路指導	1 国公立大学を中心とする生徒の希望進路の実現に向けた指導を適切に行う。	・センター試験(5-7型)に多くの生徒が参加したか。	・センター試験(5-7型)に多くの生徒が参加したか。	A	全体としては健闘した。直前まで良く努力したものの、本番の緊張感などの要因で実力を発揮できなかった生徒が出る。事前の具体的な指導を考えたい。
		2 後期日程廃止等の受験形態の変化に適切に対応する。	・生徒への情報提供等、指導が適切であったか。	進路通信等、必要な情報をタイムリーに伝えることができた。	A	より多くの生徒・保護者に進路情報が行き渡るよう工夫していきたい。
		3 『進路選択の手引き』、『合格体験記』を活用する。	・HRや教科での活用が進んだか。	各学年に運用が任されている部分があり、必ずしも効果的に利用されたとは言いがたい。	B	『進路の手引き』については、使用学年の要望を聞いて、使いやすい資料を各学年で準備したい。
		4 中学校との連携を図る。	・中学校との情報交換で、両者に有意義な情報が得られたか。	情報交換会に変わる有効な連携ができなかった。	B	特に継続した学習指導の意味で、中学との連携を模索したい。
		5 検討会や研修会の充実を図る。	・模試検討会、3年進路検討会で職員の共通理解が進んだか。	「各学年模試検討会」「3学年入試検討会」「センター総括」「入試総括」などの実施により、共通理解が深まった。	A	回数を重ねる程、形式化してしまいう研修会が出る。研修会での結果をその後の指導につなげていくよう、共通意識を持ちたい。
		6 大学見学会を実施する。	・より多くの生徒が大学見学会に参加したか。 ・生徒が大学の情報を得たか。	例年以上に参加者が多かった。	A	オープンキャンパスの日程と学校行事の調整が難しいが、参加者の満足度が高いスケジュールを組みたい。
		7 進路講座の充実を図る。	・各学年とも生徒の志望や関心に応える内容であったか。	生徒や保護者のニーズに沿った講座を設定できた。	A	今後とも継続して実施していきたい。
		8 夏期講座・土曜講座・特編授業の充実を図る。	・多くの生徒が熱心に参加できたか。	予定通りに実施できた。参加する生徒の意識も高まってきているように感じられる。	A	過去の例に従って、こなしていくだけでなく、生徒にとって効果のある講座であるよう精選が必要である。
		9 進路教材を有効に活用する。	・サテライト授業が計画的に活用されたか。	例年より充実した内容の講座を企画した。	A	サテライト教材については、1度きりの使用にとどまらず、繰り返し使用することで知識の定着を図るよう工夫していきたい。
	生活指導	1 自律的な生活習慣の確立を図る。	・遅刻をなくす指導ができたか。 ・交通安全の意識を高めるような指導ができたか。 ・貴重品管理の徹底ができたか。	・遅刻指導を5月、11月に実施した。全体として遅刻する生徒は比較的少ない。 ・街頭での交通安全指導を4月、10月に実施した。自転車の事故防止を更に呼びかけていきたい。 ・後期は貴重品の盗難・紛失はなかった。	B	・遅刻指導は引き続き実施していきたい。 ・自転車事故防止を図るため、今後も生徒に細かな注意・呼びかけを行っていきたい。 ・貴重品の管理徹底について、繰り返し注意や呼びかけを行っていく必要がある。
		2 集団生活の中での人間関係の確立を図る。	・生徒が安心して学校生活を送れるように、「いじめ」がなく、「不登校生徒」に対して十分な援助ができる体制作りができたか。	・いじめ・不登校等対策委員会との連携を図り、生徒理解に努めた。 ・必要に応じてスクールカウンセラーとの面談を行い、回復を図っている。 ・11月に「特別支援教育」の研修会を行い、支援を要する生徒の状況を把握し指導方法について研究した。	A	・対人関係が円滑にできない生徒への指導、助言の方策を探ってみたい。 ・特別支援教育コーディネーター、養護教諭との連携を図り、様々な生徒への理解を深めるとともに対応策を探ってみたい。
		3 職員間の情報の共有化と関係機関との連携を図る。	・校外での情報交換を本校の生活指導に生かしたか。 ・学校と保護者との連携を密にした生徒指導が行えたか。	・校外の関係機関や近隣の学校との情報交換を密に行った。 ・生徒指導において家庭の理解・協力が得られるように努めた。	A	・関係機関や他校との連絡を更に進めていきたい。 ・保護者に学校の指導方針を明示し、家庭の理解や協力が得られるように努めていきたい。

		4 生徒会との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校風委員会と連携して、「挨拶運動」、「自転車の施錠、駐輪マナーの向上運動」、「部室の管理指導」を実施したか。 ・部室清掃（5月・10月）を実施したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校風委員会と連携を図り、自転車の施錠・ステッカー等の点検を行った。 ・環境美化委員会と協力して部室の清掃を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校風委員会の活動を更に活発にし、自転車点検の回数を増やした。 ・生徒会と協力して部室周辺の美化に努めていきたい。
--	--	---------------	---	---	----------	--

教育活動領域	人権平和	1 基本的な人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。	・人権や平和の問題について積極的に考え、行動する力を伸ばす機会や場を設けることができたか。	・10月8日(木)に計画した全校人権平和講演会は台風18号のため実施できなかったが、講師の先生に都合をつけていただき、10月30日(金)に実施することができた。講師の尻無浜博幸先生(松本大学 総合経営学部 准教授)には「マザーテレサの実践から学ぶこと」という演題で、インドでのボランティア活動の体験談を、現地での映像を見ながら学習することができた。 ・2学年沖繩修学旅行では、事前学習も含めて、学年での取り組みや各教科の課題などを通して、さまざまな角度から人権や平和について考えることができた。	A	・一分野の人権問題に留まらず、いろいろな分野での人権問題について、広い視野に立って生徒に考えさせる機会を設けていきたい。
		2 自主的・民主的な集団づくり、仲間づくりを図る。	・ホームルームを中心に、生徒会活動、クラブ活動などを通じて、集団や仲間について学ぶ機会や体験する場を設けることができたか。	・文化祭(龍胆祭)の準備および当日の活動を通して、クラス・学年を超えた広い範囲での仲間づくりや自主的・民主的な場を体験することができた。 ・クラブ活動やクラスの活動(クラスマッチなど)を通して、集団や仲間について考える場を設けることができた。	A	・日頃の生活の中での仲間づくりについて、生徒にじっくり考えさせる時間や機会が取れるように努めたい。
	生徒会	「生徒会活動の活性化を図る。」 1 計画性を持って準備をし、実施後の反省を次に生かす。	・生徒会活動(特に、りんどう祭と卒業式第2部)、委員会活動(挨拶運動等)、クラブ活動が計画通りに実施できたか。 ・地域に関係する取り組みを計画し、実施できたか。	行事は概ね計画通りにできた。地域の清掃活動に参加し、有意義であった。クラブ活動も活発で、好成績を残した。明るく挨拶が交わされるような取り組みが欲しい。自動販売機の価格値下げになった。	B	各委員会間の連携を密にし、積極的に計画し活動させたい。
		2 活動を通して、自主性の涵養を図る。挨拶の徹底・校歌をしっかりと歌う	・自治活動や奉仕活動の達成感や満足感が得られたか。	朝の清掃活動は文化部も参加し良い取り組みが出来た。慣れにより取り組みが甘くなることのないようにしたい。	A	生徒会が先頭に立って、活動をしていくことが重要である。
		3 環境に配慮した取り組みを生徒会として行う。	・環境に関する企画をし、実施できたか。	2年目の落ち葉の堆肥は好評だった。ゴミの分別についてもよく取り組めた。	A	継続していくことと、更なる質の向上に向けた取り組みを考えたい。
	図書視聴覚	1. 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	・図書館利用が増えたか。 ・図書の貸出数は増えたか。	・図書館利用は例年と同じくらいだと思われる。 ・図書の貸し出し数は多少増加している。	A	・引き続き、工夫しながら努力します。
		2. 教科・授業、小論文への資料の充実を図る。	・利用者の要望に応じることができる資料の充実が図れたか。	・毎月発行の広報紙のリクエスト欄を活用して、要望に応じています。	A	・引き続き、工夫しながら努力します。
		3. 冬期においても快適な環境を整え、更なる施設の利用を図る。	・冬期間、多くの生徒が利用したか。	・寒期中、3年生が多く利用していた。	A	・引き続き、工夫しながら努力します。
		4. 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	・利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	・簡易的な機材を入れて、当面はビジュアルな資料を使用して授業ができるように整えました。	B	・引き続き努力します。
	保健	1 心身の管理を図る。	1 保健室への来室者への対応が適切であったか。また、関係者や関係係との連絡・連携ができていたか。 2 緊急時、保護者への連絡および医療機関との対応が迅速・適切にできたか。 3 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	・緊急時は保護者および医療機関への連絡が迅速にできるよう、関係職員と協力した。 ・定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒に個別の指導をおこなった。	A	・緊急時は今後も迅速に対応できるように努めたい。 ・職員のAED研修会を計画する。
2 環境の管理を図る。		1 学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かされたか。 2 校舎内が清掃され、清潔であるかの確認 3 校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認改善	・学校環境検査は計画通り実施した。	A	・継続した取り組みをおこなっていききたい。	
3 保健指導を充実させる。		・生徒が自分の健康に関して興味関心をもてるような広報活動ができたか。 ・保健委員会等による広報活動 ・保健委員会の活動支援	・保健だよりおよび掲示物等で広報活動をおこなった。	B	・継続して広報活動をおこなうとともに、さらに充実した保健指導ができるよう工夫をしていきたい。	
PTA	1 PTA総会、学年・学級PTAを活性化し、相互理解を図る。	・総会、学年・学級PTAに多くの人が参加したか。	・2学年PTAは「よりよい進路選択に向けて」と題し、卒業学年担当者からの報告をメインに、保護者の方も熱心に参加されていた。	A	・午前中に授業参観、午後にはPTA総会を開催したところ、PTA総会出席率が昨年の53%から60%に上昇した。	
	2 PTA研修会を通して、高校生の健全育成・適性進路について研鑽を積む。	・PTA研修会の満足度が高かったか。	・各学年毎に講師の先生から大学入試の現状と保護者の心得について、分かり易く説明をして頂いた。保護者の関心も高かった。	A	・更に保護者の皆さんに喜んで頂けるよう、PTA研修会の内容の充実を努めたい。	
学校運営	教務	1 学校が更に円滑に運営されるように努める。	・諸行事の計画を早めに立て、生徒・教職員・保護者への周知徹底が図れたか。 ・月曆の発行がされたか。 ・文書処理、成績処理等のOA化をさらに推進できたか。	・諸行事について周知徹底することができた。 ・月曆は予定通り発行することができた。 ・成績処理については学校全体として徹底していない所がある。	A	・諸校務が円滑に進むように、OA化の推進を含め校内の連携が更に深まるようにしていきたい。 ・成績処理については、来年度から情報処理係に一元化してやっていく予定である。
		2 校内の情報を外部に発信し、本校への理解を深めてもらう。	・授業参観、授業公開、体験授業、学校説明会に多くの中学生・保護者・他校教職員・地域住民等に参加していただけたか。 ・ホームページ、ポスター等で校内の様子を紹介できたか。 ・本校の将来像を地元の中、地域住民へわかりやすく紹介できたか。	・多数の中学生・保護者・引率職員の参加が得られた。PTAと連携して授業参観を実施し、本校保護者に参観していただいた。職員で分担して中学校訪問をして本校をPRした。 ・ホームページの更新が順調にできた。 ・本校の将来像については、まだ本校全体の議論になっていない。	B	・授業参観・授業公開・体験授業等に更に多くの参加者が得られるように、内容・日程等について更に改善していきたい。 ・さらに様々な情報が発信できるように工夫していきたい。 ・本校の将来像について議論を深めていきたい。
	予算施設	1 老朽化および危険箇所への十分な対応をする。	・生徒への危険が事前に回避されていたか。	・要望のあった生徒への危険度の高いところから、費用等をみながら改修、改善をしています。	A	・生徒昇降口の履物用ロッカーが全学年分更新して使いやすくなった。
		2 県費およびPTA会費により生徒の教育環境がより充実するよう予算編成する。	・備品、設備、施設等の整備ができたか。	・危険な本箱を撤去し、2つ購入。文化祭で不便。不都合のあった中庭の舗装をおこなった。プールも事務長、校用技師さん等行政の方々の奮闘で当座は生徒が危険なく使用可能となった。 ・念願のグラウンドの排水改修工事ができた。	A	・引き続き努力します。大体育館のバスケットゴール昇降機の修理が残っています。
	情報処理	1 情報処理機器、ネットワーク利用による一層の校務合理化の推進を図る。	・データベースを整備し、今まで以上の活用ができたか。 ・ワードやエクセルを中心としたアプリケーションの利用者が増えたか。	・プリンター等老朽化した機器の取り替えを行った。	B	・必要に応じて機器の更新等をして更なる利便性の向上を図りたい。
		2 情報処理機器、ネットワークを使った教育活動の推進を図る。	・授業で活用できたか。 ・授業や生徒の様子を外部に発信することができたか。	・情報科で利用した。 ・ホームページを効果的に使用した。	A	・授業に必要な機器の整備に努めたい。
		3 情報リテラシー教育の推進を図る。	・個人情報・著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員・生徒に伝えたか。 ・クラブ活動、特別活動などで正しい知識と実践を指導できたか。	・年度初めに周知徹底を図った。 ・ほぼ実践できた。	A	・外部講師による講演等の機会を検討する。
	防災	1 緊急体制を整備・確立する。	・生徒・職員の緊急連絡網が整備されたか。 ・避難訓練が有効に行えたか。	・連絡網については4月当初に準備できた。 ・予定時間内に避難を完了することができた。	A	・緊急連絡網のみならず、防災計画書の内容についても検討を重ね、緊急時により適確に対応できるように努めたい。
		2 緊急時の対応方法を確立する。	・緊急避難経路が生徒に対して周知徹底されたか。 ・緊急時の対応が適切であったか。	・避難経路は4月当初にきちんと周知徹底されており、実際の訓練でより確実なものになっている。	B	・引き続き安全・安心な学校運営を目指す。特に、緊急時での校内放送設備にや不安が見られるので、設備の充実を努めたい。